

上宮寺通信

第六十二号

妙好人・田原のお園さん

記録的な猛暑もようやく収まり、過ごしやすい季節となりました。読書の秋、芸術の秋、スポーツの秋といわれるように何かに打ち込むには最も適した時期です。ゆっくりと自分自身を見つめるというのもいいかもしれません。

浄土真宗ではお念仏のおいわれを聞かせていただく仏法聴聞を大事にしてきました。仏法聴聞により自分自身を見つめてきたのです。そのことにより仏法に目覚め、お念仏に生きた人を古くから「妙好人」と申してきました。主に江戸時代に多く、全国に妙好人は誕生しました。

愛知県にも「田原のお園さん」と呼ばれる妙好人がいました。今回はお園さんの逸話を紹介していきます。

あるとき有名な学僧が三河の各地を巡回し、法話をしてまわられたことがありました。そのときお園さんは、一度もかかさず聴聞してまわったそうです。半月あまりもかかって、いよいよ最後の法座が矢作川のほとりのお寺で行われました。その夕方、お園さんはお別れの挨拶をして

「この度はありがとうございました。頂戴しましたが、お聞かせいだいたお話も家に帰ればすぐに忘れてしまいます。どうぞ最後に、一言、お聞かせにあずかりとうございます」と申し上げる

と、学僧はしばらく考えた後、

「お園さんや、聞けばこのごろあの矢作川に掛かる橋が流れてしまったそうじゃのう」

「はい、さようでございます」

「あの橋は、流れそうもない丈夫な橋であったがのう」

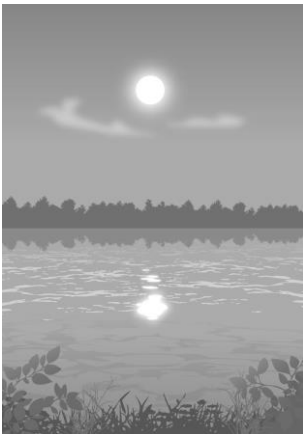
「さようでございます。このたびの洪水は大変なものでございまして、あの丈夫な大橋もとうとう流されてしまいました」

「そうであったか。しかし、橋は流れても、天から映ってくる月影はよもや流されはせぬであらう」

その言葉が終わらぬうちに、お園さんはにっこり微笑んで、「ありがとうございます。お助けの月は、そのまま私の心に映ってくださいました。南無阿彌陀仏」とお念仏申したというこ

とです。

私の心というのは、流れてやまぬ大洪水のように煩惱でいっぱいです。時には濁り、時には荒れ狂う。休まることはありません。しかし、そんな私の心にも決して変わらぬ阿彌陀仏の願いが月のように照らしてくださると、お園さんはいただいていかれたのです。



◆行事案内

上宮寺の行事

報恩講

11月8日(水)午前10時

法要 引き続き 法話

法話 伊奈祐諦 師

(西尾市安楽寺前住職)

※午前だけの法要といたします。

お斎(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月24日(金)

東本願寺報恩講(逮夜)参拝、

聖護院門跡 見学 他

参加費 一五、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)



その他の行事

第70回 舞楽と管絃の会

10月11日(水) 18時半

名古屋芸術創造センター

【演目】

管絃 「盤渉調越殿楽・白柱」

朗詠 「十方」

舞楽 「納曾利」「陵王」

※入場無料

上宮寺公式アカウント



友だち登録をお願いします。

行事をお知らせするとも「LINE」

を使うの法要の依頼や

相談もできます。

◆話題あれこれ

○お盆に続いて台風が接近する中、秋のお彼岸・永代経法要を無事に勤めることができました。多くの方にお参りいただきありがとうございます。

○今月11日(水)には、4年ぶりに雅楽の演奏会を行います。住職は最後の演目の「陵王」の笛を吹かせていただきます。ご興味ありましたらぜひお越しください。

○11月16日(木)に東別院で住職が法話をさせていただきます。午前11時10分からと午後1時から二座で各30分となります。場所は本堂横の建物で「対面所」になります。

○季節の変わり目です。体調には十分お気をつけください。

【雑感】

阪神、オリックスの優勝で関西は大盛り上がりです。オリックスは三連覇になるのですが、それまでは長い低迷期がありました。阪神も18年ぶりと長く優勝から遠ざかっていました。その両チームの特色が安易に選手を他球団から補強して強くしていかうというのではなく、長期的な視野に立って選手を獲得、育成していったというところにあります。目先のことにあふたせず信念をもってやっていくことの大事さをあらためて気づかせられます。今年も下位に低迷した某球団にはその信念はあるのでしょいか。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547